

日本の大量公共交通の完璧さに 感心しました。

H. H. Zaitz

I'm very much impressed by the technological perfection of Japanese urban mass transit system.

H. H. Saitz

中村 ザイツさんはドイツ民主共和国（東ドイツ）の交通計画関係者では、日本に來られた初めての人と伺っております。ドイツ民主共和国は社会主義国であり、交通においても日本とは非常に多くの点で違うと思います。一番最初に、來日されてこの数日の間に東京で見られた交通と街の状況についての印象をお聞かせ下さい。

ザイツ 最も感銘を受けたことは日本の交通の完璧さです。特に、地下鉄などはその構造物や車両の質と清潔なこと、そして運行が正確なことについては大変驚きました。また、鉄道などの公共交通の情報の伝え方は完璧に思われました。しかし、大手町の駅などに見られるように駅での乗り換えは大変歩行距離が長く、改善の余地があるように思われました。

都市は猛烈であり、かつ混沌としているように思われます。しかし、自動車の流れは思ったよりも整然としておりました。地下鉄などの良い公共交通機関が高い駐車料金と相まって道路交通をこのようにしているのかと思われます。交通のコントロールはZuckerbrot（菓子パン）とPeitsche（鞭）が必要です。

ペンシルビルはいただけないと思います。また、地下街は大変迷いましたし、上や下への移動が多いので、障害者は大変かと思ひます。

中村 ドイツ民主共和国の交通の実情は日本ではあまり知られておりません。少しお聞かせ下さい。

ザイツ 都市間交通では鉄道がよく使われています。特に、貨物輸送の大きな役割を鉄道が占めています。私の国ではエネルギーの多くはハレ、コトブスなどの南部地方で産出される褐炭に頼っていますが、これらの輸送もほとんど鉄道で行われます。

自動車の普及率は現在ではほぼ5人に1台と言われているのですが、ただ自動車の値段は大変高く、しかも購入するためには何年も待たなければなりません。

そのため車齢は古く、平均で、10年以上にも達します。また修理工場もどこにでもあるというわけではないので、自分で修繕しなければならないことが多いのが問題です。

エアフルト市（人口約21万人）のような中都市がドイツ民主共和国には多いのですが、このような都市では市電がよく発達しています。郊外のニュータウンの多くもこの市電で結ばれています。

都市の中心部では最近では自動車を排除した街づくりが進められようとしています。特に、エアフルトのような歴史的な建造物が多く残る都市においては、このような歩行者中心の施設を整備する試みが熱心に進め

られています。

中村 交通計画はどのような役所が担当しているのでしょうか。

ザイツ ドイツ民主共和国は中央集権的な政治行政体制を持っています。全国は15の県から成り立っております。また、その県の中に多くの都市が含まれ



1936年生まれ。エアフルト市の交通計画部長。レンガ積み工から勉学を志し、大学で土木工学を学んだ勉強家で、ワイマール土木建築大学で交通計画の学位を取る。交通に関する多くの著書がある。

